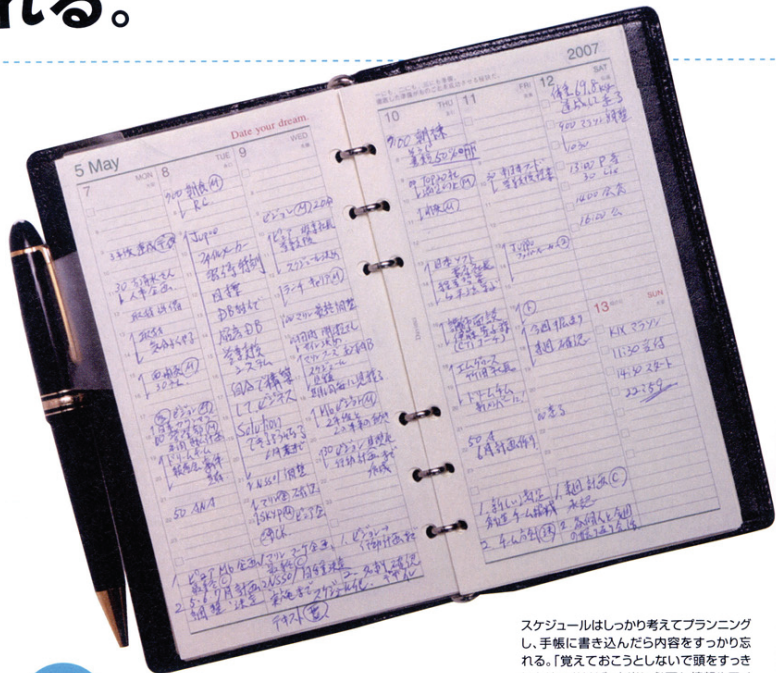


# 夢を言葉に整理すれば、 現実を動かすエネルギーが 生まれる。



スケジュールはしっかり考えてプランニングし、手帳に書き込んだら内容をすっかり忘れる。「覚えておこうとしないで頭をすっきりさせておけば、本当に必要な情報やアイデアを見落としません。びっちり書き込んでゆったりこなすと良い仕事ができます」。

point

いつでも何度でも手帳を見直して  
「1人作戦会議」

言葉に整理して発信すると、

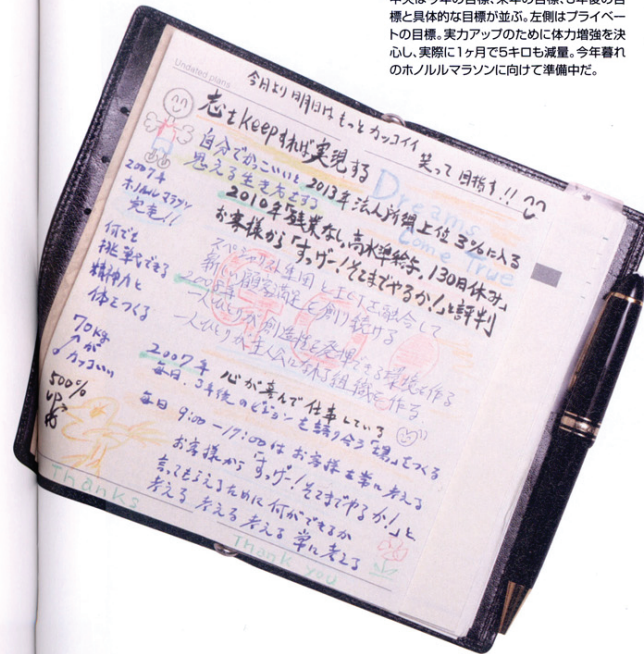
望む人やモノと出逢える

情報は  
一流の人たち、  
スペシャリストたち  
から直接手に入れる



仕事と人生の楽しさを伝えたい、お客様に「そこまでやるか!」と言わせたい、流通業界を変えていきたい…人材育成の新しいカタチを作りたい…。夢に向かって走り続ける人には、熱い整理術というものがある。

中央は今年の目標、来年の目標、3年後の目標と具体的な目標が並ぶ。左側はプライベートの目標。実力アップのために体力増強を決心し、実際に1ヶ月で5キロも減量。今年暮れのホノルルマラソンに向けて準備中だ。



learn from a professional business person



株式会社アイマム

代表取締役

嶋谷光洋

Mitsuhiro Shimatani

## PROFILE

大学卒業後、専門商社に入社、システム販売を担当。その後研修コンサルティング会社に転じ、自ら多くのクライアントを開拓。経営指導から教育研修まで、高いコンサルテーション能力を発揮し、2000年には(株)アイマムを設立。数々の大企業がクライアントに名を連ねる同社では、「一人ひとりが主人公になれる組織を作る」を目指し、新入社員教育研修、コーチング、アクションラーニング、営業コンサルティングなどを手がけている。

## 書くことが夢への第一歩

おもに東京・大阪間を行き来し、年に200回も飛行機に乗るといふ嶋谷さん。だが、その多忙なスケジュールを管理する手帳は意外に小ぶりだ。彼は「これを選んだのは、ジャケットの内ポケットに入るサイズだから」という。実はつい最近、長年愛用していたフランクリンのバイブルサイズ手帳に別れを告げたばかりだ。「厚く大きな手帳は多機能で便利だが、飛行機の座席などちょっとした移動時間のたびに開くのが億劫になりがち。さっと取り出せて機動性の高いサイズのほうが、使いやすくて役に立ちますね」。

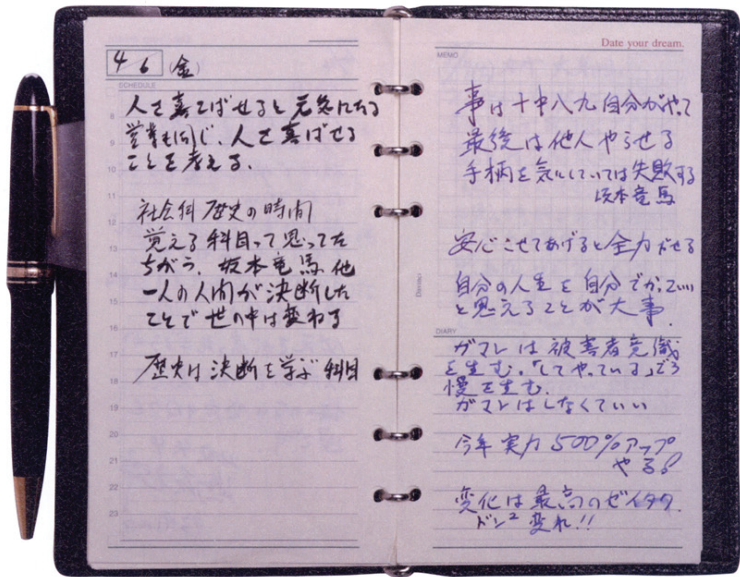
大阪・東京間約1時間の飛行時間をはじめ、空き時間は嶋谷さんの「1人作戦会議時間」である。「よく利用する飛行機は朝6時35分の始発便。座席についたらその日のスケジュールを確認したり頭の中を整理したり、この手帳1冊を使って作戦会議をする。8時30分に東京のオフィスに着く頃には、「やるぞ」と準備万端の状態です」。

また、最近の仕事を振り返ることも重要だ。「手帳を見ながら思い返すと、その時は気づかなかった色々なことが見えてくる」と嶋谷さん。「気づき」が新企画につながることもある。手帳をサイズダウンした効果は、すでにいろいろ

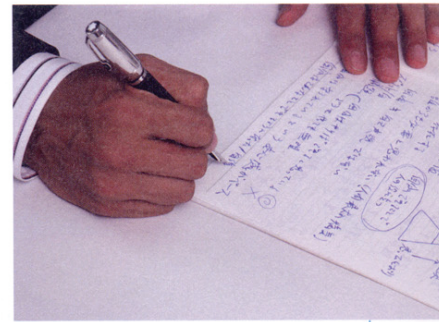
ろと表れているのだ。また、TVを見たたり本を読んでいる最中に気になった言葉、さつと頭に浮かんだアイデアなども、どんな手帳に記している。「こういうページを読み直すと、やはり思わぬ収穫がある」と嶋谷さんは言う。

現在の自らの目標を記した巻頭ページも、頻繁に開く部分だ。「志をKeep実現する」などの筆ペンで文字がひときわ目を引く。嶋谷さんの思いや決意が溢れるページだ。ここに自ら書いたものを何度も見なおし、そして人にも話す。それが、夢を実現する第一歩だ。





左ページは、たまたまつけたTV番組から思ったこと。また右ページ下は、この春の新人研修を担当した時の決心。「成長し変化していく若い人たちが目の当たりし、自分それ以上に成長してやると、実力500%アップを目標にしました」と嶋谷さんは熱い。



万年筆と筆ペンは、気持ち良くさらさら書きたい時に使う。スケジュールの部分だけは、びっしり書きこんでもきちんと読み取れるようにボールペンを使う。「一番気合いや思いが伝わるのは筆ペンですわ」と嶋谷さん。普通掛ノートはジャケットの内ポケットに入るサイズにした。「フランクリンのバイブルサイズは長年愛用していましたが、切り替えてみたらやはりさつと取り出しやすいほうが使いやすいことがよく分かりました」。



てただけ新しい情報や仕事が入ってきますね」。

**スベシヤリストの力を借りる**

情報については「昔は自分の足だけで稼いだ」という嶋谷さん。新聞や書籍、ネットなどで得た情報をうのみにしはしない。「新聞の記事と現場が食い違っているのもよくあること。実際に足を運び、見たり聞いたり食べてみたり、自分自身で情報を集めてきました」という。現在は業界の大手企業をクライアントとして、さまざまな活動をする嶋谷さんにとって必要な情報は多岐にわたる。しかも彼が会社の仕事の合格点として考えているのは、お客様に「良かった!」と言われる程度ではなく、「そこまでやるか!」と驚愕されるレベル。「そのレベルに達するために、情報はつねに旬でなければならぬ。やはり餅は餅屋ですから、現在はさまざまな分野ごとのスベシヤリストを揃え、旬な情報という素材を最高の料理で出せる態勢を作っています」という。ただし、自ら「一流の人々」に会いに行くことだけは続けている。たとえば京都の有名なハイヤー運転手さんに会いに行き、世界のVIPから指名される方の仕事ぶりを見せてもらう。あるいは、新幹線車内販売で売上日本一と

なったチームに会いに行き、車内販売の極意を教えてもらう。こうした人々との出逢いを果たすと、彼はすぐにPCで情報を整理する。「一流の人たちの仕事ぶりに感動して、自分はまだまだだあと足りないが感想なども含めて何でも書いておきます。一流の仕事体験し、自分の言葉で整理することが彼の血肉となりパワーの源となっている」。

一流の人々との出逢いは、「願っているといつか舞い込んでくる」と彼は言う。自ら「この人に逢いたい」と発信しつづけることが実現への原動力になるのだ。同様に「この研修にはこういう講師がほしい」「この分野のこういう人に逢って教えてもらいたい」と発信することで、優れたスベシヤリストを集め戦力としてきた。現在の彼の会社は200人を超える講師を彼らドリームチームを結成しました。彼らと共に人材育成のあり方に革命を起こす情報提供のシステムを作っていますよ」と嶋谷さん。彼の手帳に書かれたさまざまな夢は、いま実現に向かって確実に動き出している。

**工夫が効果・効率をアップ**

書くための道具として彼が愛用するのは、万年筆と筆ペン。スケジュールはボールペンを使うが、さらさらと書き連ねたい時には万年筆か筆ペンのどちらかを使う。「こういう筆記具で書いた文字には気持ちがいい。手紙でもボールペンより筆ペンの文字のほうが思いを伝えるものだし、自分用のメモも書いた時の状況や思いをリアルに思い出せます」。

「一人作戦会議」以外にも、嶋谷さんは朝の時間を上手に活用している。たとえば定期的に中小経営者たちと集まり、7時から朝食会をする。「情報交換して、互いに考えを整理することができ。大阪リッツカールトンホテルなど雰囲気の良い場所を使うと、たとえ調子が悪くても思考がポジティブになれるのも良いですね」。

また、時に「朝練」をすることもある。「早く出社して机周りの書類を半分の量に捨てます。これを『50%オフ』と呼んでいます。モノがすっきりすると、気分も一新する。「部屋の状態はその人の状態を表しますね。自分の仕事ぶりが甘くなっていると感じた頃は書類もたまっていく。だから月に一度くらいは『50%オフ』をします。きちんと整理すると生まれ変わったように気持ちが良いし、捨